

希望の明日

2009年9月11日 32号

生存権裁判を支援する北海道の会

事務局：北海道生活と健康を守る会連合会

札幌市西区八軒8条東5丁目4-20

TEL(011)736-1722 FAX(011)736-1688

メール：doseiren@joy.ocn.ne.jp

◆9/10 大通街頭宣伝◆

71名参加、署名108筆、募金30,000円



加算の縮小・廃止

左から原告の伊藤弘美さん、菊池繭美さん、原告予定者の伊賀理香子さん



青く澄み切った秋空の下、大通には原告・支援者ら、宣伝としては過去最高の71名が集まり署名を呼びかけました。

2008年5月から通算10回目となる今回の行動は、9日の「連立政権の政策合意」の中で明記された母子加算の復活を一刻も早く、国会両院議長宛の署名に取り組んだもの。通りにずらりと並んだ支援者の呼びかけや各弁士の熱い訴えにマスコミも大いに注目。短時間で108筆の署名が集まり、募金もこれまでに最も多い3万円が寄せられました。



三浦誠一事務局長

07年12月からずっとこの裁判を続けてきました。そして今、母子加算の復活がいよいよ日程に上ってきたことを多くの国民とともに喜び合いたいと思います。ただ、それがいつになるかが重要です。一刻も早い実施を求める署名に是非ご協力下さい。また、今後は老齢加算の復活や、子どもの貧困をなくすため高校の学費無償化・奨学金の無利子化なども目指して行きましょう。これからも宜しくご支援をお願い致します。



細川久美子原告世話人代表

(原告の川口さんについて)多くの苦しみを抱えながらも「社会の変化の兆しが少し見えてきたのが希望です」と話してくれました。

(多額の募金を寄せてくださった方の手記を紹介)この方は先日の裁判を傍聴して原告の苦しい生活にふれて、一刻も早くなんとかせねば健康を害する、実現するまで苦しみが続くと募金を寄せて下さったんです。こういう人達の一筆一筆の署名が母子加算の復活につながり、それがまた老齢加算の廃止や障害者自立支援法、後期高齢者医療制度をも変える力になるんです。